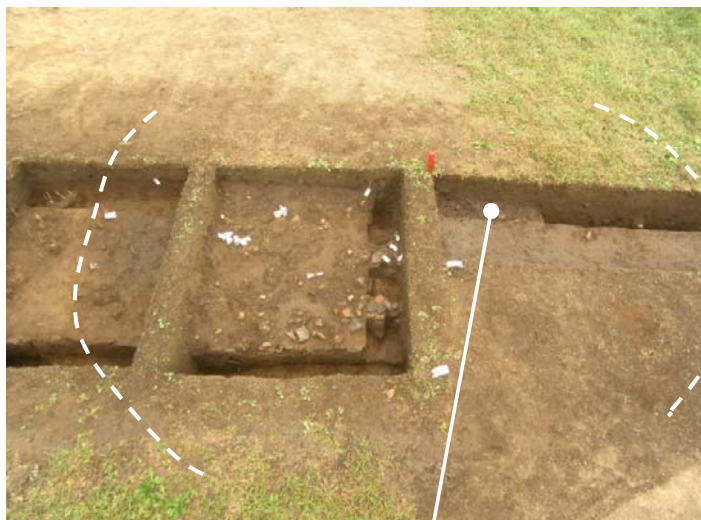




1号トレンチの南端で見つかった縄文時代の遺構は、後期中頃(約3500年前)の住居跡であることがほぼはっきりしてきました。

土層の断面で竪穴住居の床や壁、柱穴が一部発見されました。

写真の点線は住居跡の形の推定で、直径が5～6m程の円形または楕円形になる模様です。



南側に延長したトレンチからもたくさんの土器が見つかりました。

やはり時期は縄文時代後期中頃のもです。

住居跡のほぼ中心付近から土器がたくさん見つかるようです。



明日は調査成果を見てもらう現地説明会が行われます。

一部の調査のみで住居跡の形が分かりにくいので、地面に縄を張って見やすくするなど、準備を行っています。